

政治・経済

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

平成27年度大学入試センター試験の公民科「政治・経済」の受験者数（追・再試験を含む。）は、45,330人で、昨年度比3,059人（6.3%）の減少となった。

出題は、「政治・経済」全分野にわたる総合的な内容で、例年同様に、基礎的・基本的な知識や理解を問う問題が中心であるが、知識を活用して資料やグラフを読み解くような思考力や判断力を求める問題もあった。出題内容は受験者に対して、政治や経済に関する知識を問うと共に現代社会の諸課題について多面的・多角的に考察させており、現代の政治、経済、国際関係の動向や本質を探究させ、「平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」とした高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）の公民科の目標に沿った出題者の意図を感じることができる。

以上のことを踏まえ、細部にわたる評価に当たっては、次の点に留意して行った。

- (1) 学習指導要領の目標・内容に適合しているか。また、それに準拠した教科書や授業内容に即した問題であるか。
- (2) 基礎的・基本的なものから広い視野に立った思考力・判断力・応用力を問う総合的問題まで、バランス良く配分されているか。
- (3) 「政治・経済」という科目の性格に鑑み、身近な社会問題についての関心と考察を促すように工夫されているか。
- (4) 各分野の問題配分は適切か。問題の出題方法、配点、難易度は適切か。
- (5) 過去の問題に対する意見や評価を生かしているか。

2 試験問題の内容・範囲等

第1問 第二次世界大戦後の国際社会における日本の在り方をテーマにした、政治分野と経済分野の融合問題である。リード文では、国外で生じた問題が私たち一人ひとりの生活に影響を及ぼしていることを指摘しており、それらの問題に当事者意識を持って向き合うことを求める出題者のメッセージが読み取れる。設問には細かい知識を問う問題も含まれており、難易度はやや難しい。

問1 経済学説に関する平易な問題である。

問2 日本の経済政策に関する標準的な問題である。

問3 日米構造協議に関するやや難しい問題である。

問4 日本の中小企業に関する標準的な問題である。

問5 日本の貿易動向に関するやや難しい問題である。アメリカ及び中国に対する日本の貿易動向に関する知識を基に資料を読み取る応用的な良問である。

問6 国連分担金の分担率に関するやや平易な問題である。図を用いているが解答を導くのに思考力・判断力を求めている。他の資料と組み合わせるなどすることで思考力・判断力を問うような工夫を求めたい。

問7 集団安全保障体制に関して、知識を基に思考力を問う問題である。難易度は標準的であるが、集団安全保障体制の枠組みの中で各国の取るべき行動が具体的に書かれており、受験

者が解答を導く過程で理解を深めることができる良問である。

問8 P K Oへの自衛隊の参加に関するやや難しい問題である。

問9 日本の安全保障体制に関するやや難しい問題である。

問10 軍縮や軍備管理のための条約に関して、細かい知識が求められる難しい問題である。

第2問 日本の農業をテーマにしたリード文の下、幅広い内容について問う経済分野の問題である。リード文は農業を取り巻く状況の変化を多角的に論じている。設問は知識のみでなく思考力や資料を読み取る力など、総合的な力を問うものとなっている。難易度は標準的である。

問1 経済安定9原則に関するやや難しい問題である。

問2 高度経済成長期に制定された法律に関するやや平易な問題である。

問3 日本における産業別割合の推移に関して、知識を基に資料を読み取るやや平易な問題である。

問4 比較生産費説に関して、思考力を問う応用的な問題である。難易度はやや難しいが、比較生産費説についての問題はやや定型化しており、出題形式を工夫することによってより深く考えさせる良問になることを期待したい。

問5 経済の自由化政策に関する標準的な問題である。

問6 新農業基本法に関するやや難しい問題である。

第3問 日本の租税と財政をテーマにした経済分野の問題である。リード文は二人の学生による会話文形式であり、親しみやすい文章になっている。設問は基礎的な知識を問う問題と思考力を問う問題や資料問題がバランス良く含まれており、難易度は標準的である。

問1 2000年以降の賃金をめぐる動向や出来事に関する平易な問題である。

問2 日本の社会保障制度に関する平易な問題である。

問3 国庫支出金に関して、知識を基に資料を読み解く応用的な問題である。義務教育費の国庫支出金が減額されたことについては細かい知識であり、やや難しい問題である。

問4 2000年度以降における日本の国債に関する標準的な問題である。

問5 国民負担率に関する標準的な問題である。

問6 各国における経済政策に関する標準的な問題である。

問7 企業の資金調達に関して、思考力を問う応用的な問題である。平成22年度公示の学習指導要領で重視されている「金融に関する環境の変化」を読み取らせるものであり、工夫された良問であると言える。やや難しい問題である。

第4問 まちづくりにおける規制の在り方をテーマにしたリード文の下、政治分野の幅広い内容について問う問題である。リード文には時事的な内容が含まれており、読みやすい文章となっている。基礎的な知識を問う問題が多く、難易度は標準的である。

問1 基本的人権に関する平易な問題である。

問2 環境の整備や保全に関する日本の取組みに関する標準的な問題である。

問3 住民の直接請求権に関する標準的な問題である。

問4 日本における政策決定に関するやや難しい問題である。

問5 紛争を処理する手段に関する標準的な問題である。

問6 地方自治の本旨に関するやや難しい問題である。基礎的な知識を基に地方自治の本旨における具体例について思考させる良問である。

問7 六次産業化に関する標準的な問題である。時事的な事柄を考えさせる良問である。

第5問 環境権をテーマにしたリード文の下、政治分野の基本的な知識を中心に問う問題である。リード文は憲法改正についても触れており、メッセージ性のある内容となっている。難易

度はやや平易である。

問1 フランス人権宣言に関するやや難しい問題である。

問2 身体の自由に関する平易な問題である。

問3 憲法に関する平易な問題である。

問4 国民の権利及び義務に関するやや平易な問題である。

問5 若年世代の政治参加に関して、思考力を問う良問である。出題者の受験者に対するメッセージを感じることができ、解答を導く中に学びがあるという、非常に工夫された良問である。難易度は標準的なものである。

問6 日本国憲法の改正手続に関するやや平易な問題である。

3 試験問題の分量・程度

- (1) 問題を四つの観点で分類した上で、分量・程度について分析した。教科書に基づく知識を使って思考力や応用力を問う問題（第1問の問5、問7、第2問の問4、第3問の問5、問7、第4問の問6、第5問の問5）は、7問21点であり、昨年度の5問15点から増加した。時事的・社会的な知識から国内的・国際的な諸問題を考えさせる問題（第4問の問7）は1問3点、資料を用いて分析力等を問う問題（第2問の問3、第3問の問3）は2問6点、教科書に基づく知識を問う問題は、26問70点であった。多少の減は見られるものの昨年度とほぼ同様だと思われる。また、基礎と応用というレベルでの分類では、基礎31問85点、応用（第1問の問5、第2問の問4、第3問の問3、7、第5問の問5）5問15点であり、昨年度（基礎32問90点、応用4問10点）より応用的な問題が多く出題された傾向であった。
- (2) 各分野の問題配分及び配点については、政治分野が17問47点、経済分野が19問53点であり、昨年度と比較すると問題配分及び配点共に経済分野の比重がやや大きいものとなった。

4 試験問題の表現・形式

今年度の設問数は、大問数5と設問数36で変更は無かった。リード文には、政治や経済の諸課題について受験者に思考や理解を促す出題者のメッセージや意図が随所に感じられる。特に第1問のリード文は、国際問題が直接的に私たちの生活に影響を与えることを示唆した良文である。

知識を活用して図やグラフを読み解く思考力や判断力等の総合力を求める良問も見られた（第1問の問5、第2問の問3、第3問の問3、問7）。また、若者の政治参加について考えさせる良問が見られた（第5問の問5）。一方、リード文の内容との関係性が薄い設問も一部に見られた。リード文の内容を更に生かした設問となるよう留意していただきたい。

5 要 約

- (1) 学習指導要領が求めている内容に沿って、広い範囲から出題されている。正確な知識の理解、文章や資料を読み取る読解力、与えられた材料から正答を導き出す思考力が求められている。国際的な視野を必要とする問題や、応用力を問う良問も見られた。
- (2) 全体として教科書での学習を基本とした出題であるが、基礎的・基本的知識を土台に思考力や判断力を様々な形で問う設問が引き続き出題された。今後も、同様な設問が出題されることを希望する。
- (3) 時事的・社会的問題を出題することは、日常的に社会現象や現代社会の諸課題に対する興味・関心を持たせ、公民的資質を高める機会となる。今後更に出題が増えていくことを期待したい。
- (4) リード文には、「政治・経済」の目標である「良識ある公民として必要な能力と態度を育てる」

意図が感じられた。現状やその背景を認識させながらも将来に向けての提言がなされており、良文が多かった。一方、本試験に見られたリード文の趣旨を踏まえて解答する設問がなく、リード文の内容を更に生かした出題を期待する。

- (5) 大学入試センター試験は、単に選抜のための学力評価だけでなく、高等学校教育の在り方に対する重要な指針となり、授業内容や指導の在り方を方向付ける役割を担っている。また、どのような学力を期待しているかという大学教育からのメッセージでもあると考えている。今後も、政治や経済の基礎的概念や理論の理解を求める創意工夫された問題と共に、時事的・社会的問題や資料を用いて多面的・多角的に考察させる問題を期待したい。